

機関番号：14101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21720174

研究課題名（和文）英語における内包的他動詞の獲得に関する認知科学的研究

研究課題名（英文） A Cognitive Study on the Acquisition of Intensional Verbs in English

研究代表者

杉崎 鉦司 (SUGISAKI KOJI)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号：60362331

研究成果の概要（和文）：

本研究では、内包的他動詞である *need* に相当する他動詞の言語間変異を司る生得的制約に関し、英語の獲得の観点から検討を行った。英語を母語とする幼児約 10 名分の発話を詳細に分析した結果、他動詞 *need* を他動詞 *have* よりも有意に先に獲得する幼児は観察されなかった。この結果は、「他動詞 *have* を持つ言語のみが他動詞 *need* を持ちうる」とする Harves & Kayne (2008) の主張に対し、言語獲得からの支持を与えるとともに、言語間変異を司る生得的制約の存在に対しても新たな証拠を与えるものと解釈できる。

これと関連して、項削除の言語間変異を司る生得的制約や、「断片的な答え」の形式に関する言語間変異を司る生得的制約に関しても、獲得の観点から検討を加えた。

研究成果の概要（英文）：

This study attempted to reveal the nature of the innate constraint that governs the cross-linguistic variation in the availability of the intensional transitive verb *need*. The results obtained from the analysis of the spontaneous speech corpora of 10 English-learning children showed that there was no child who acquired the transitive *need* significantly earlier than the transitive *have*. These results not only lend support to the claim by Harves & Kayne (2008) that only those languages that have the transitive *have* permits the transitive *need*, but more importantly provide support for the innate constraints on language variation.

This study also investigated the nature of the innate constraint that are relevant to the cross-linguistic variation in argument ellipsis, and also the innate constraint that determine the cross-linguistic variation in fragment answers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：

言語心理学

科研費の分科・細目：

言語学・英語学

キーワード：

内包的他動詞・パラメータ・普遍文法・生成文法・言語獲得

## 1. 研究開始当初の背景

言語機能は、その初期状態においてどのような性質を持ち、また成人(安定状態)に達するまでにどのような変化を経るのか。この言語機能の個体発生(「言語獲得」)の問題は、こころ(mind)の仕組みと働きを研究する認知科学にとっても、脳の仕組みと働きを研究する脳科学にとっても中心的な研究課題である。生成文法理論と呼ばれる言語理論は、言語機能の初期状態を(i)全ての言語において満たされるべき性質である「原理」と(ii)言語間の可能な異なり方(言語間変異)を規定する「パラメータ」からなるものと捉える。そして、言語獲得は、幼児が言語経験に基づいてパラメータの値を設定していく過程であると仮定する。

この言語獲得に関する生成文法理論の根本的仮説が正しいのであれば、言語獲得過程はパラメータに関する仮説の立案及び検証にとって重要な情報源となるはずである。この立場に立ち、獲得研究は、その中心的課題のひとつとして、母語獲得の過程を詳細に調査することにより、言語間変異を司るパラメータの存在に対し証拠を与えること、および個々のパラメータの性質を明らかにすることを目指してきた。だが、多くのパラメータは3歳頃までには目標とする言語の値に定まってしまうようであり、従って言語獲得に基づきパラメータの検討を行うためには、3歳以前の幼児からのデータが必要となる。近年、CHILDES(Child Language Data Exchange System; MacWhinney 2000)と呼ばれる幼児発話のコーパスが大変充実したものとなり、これにより3歳以前の発話データを大量にかつ詳細に分析することが可能となった。

## 2. 研究の目的

上記のような背景を踏まえ、本研究では、CHILDESを用いた言語獲得からのパラメータの検討を行うことを目指した。だが、これまでに国内外で実施された研究とは異なり、「文」の持つ性質の言語間変異ではなく、「語」に関わる性質の言語間変異を取り上げた。最新の理論的研究の成果により、'need'のような内包的他動詞(intensional transitive verbs)は、パラメータの働きにより言語における分布が非常に狭く限定されているという提案がなされている(Harves & Kayne 2008, Harves 2008)。本研究では、この理論的提案をもとに、英語の獲得過程を詳細に分析することにより、他動詞'need'の言語間変異を司るパラメータの存在とその性質を明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究では、CHILDES データベースに含まれている英語を母語とする幼児のコーパス10名分をとりあげ、それを詳細に分析することにより、他動詞 *have* と他動詞 *need* の獲得に一定の順序が見られるか否かを分析した。具体的には、各幼児に関して、他動詞 *have* を含む最初のはっきりした発話と、他動詞 *need* を含む最初のはっきりした発話を見つけ出し、その両者に統計的に有意な差が見られるかどうかを、二項検定を用いて明らかにした。また、その獲得順序が、周りの大人の発話におけるこれらの動詞の出現頻度に基づいて説明可能かどうかに関しても、検討を行った。

## 4. 研究成果

分析の結果、幼児10名の内、4名は他動詞 *have* を他動詞 *need* よりも有意に先に獲得し、残りの6名は、両者をほぼ同時期に獲得した(有意な差は見られなかった)。つまり、他動詞 *need* を他動詞 *have* よりも有意に先に獲得した幼児は観察されなかった(Table 1)。一方、他動詞 *need* と意味的に近い他動詞 *want* と他動詞 *have* との間には、このような一定の獲得順序は観察されなかった(Table 2)。さらに、*have* と *need* の間に観察された獲得順序は、必ずしも大人の発話頻度によって説明できるものではないことも明らかとなった(Table 3)。これらの発見は、「他動詞 *have* を持つ言語のみが他動詞 *need* を持ちうる」とする Harves & Kayne (2008)の主張に対し、言語獲得からの支持を与えるものである。さらに、この発見は、可能な言語間変異を司る生得的なパラメータに関し、早期言語獲得の観点から新たな証拠を与えるものと解釈できる。

Child	Transitive <i>have</i> vs. Transitive <i>need</i>	
	Early acquired	<i>p</i> =
Adam	<i>have</i>	<i>p</i> < .05
Anne	<i>have</i>	<i>p</i> < .01
Aran	<i>have</i>	<i>p</i> < .001
Becky	at around the same time	<i>p</i> > .05
Eve	at around the same time	<i>p</i> > .10
Naomi	at around the same time	-----
Nina	<i>have</i>	<i>p</i> < .001
Peter	at around the same time	<i>p</i> > .10
Sarah	at around the same time	<i>p</i> > .10
Shem	at around the same time	<i>p</i> > .10

Table 1: *have* と *need* の獲得順序

Child	Transitive <i>have</i> vs. Transitive <i>want</i>	
	Early acquired	<i>p</i> =
Adam	have	<i>p</i> < .05
Anne	want	<i>p</i> < .001
Aran	want	<i>p</i> < .001
Becky	want	<i>p</i> < .001
Eve	have	<i>p</i> < .05
Naomi	want	<i>p</i> < .001
Nina	at around the same time	<i>p</i> > .05
Peter	at around the same time	-----
Sarah	want	<i>p</i> < .01
Shem	want	<i>p</i> < .001

Table 2: *have* と *want* の獲得順序

Child	Transitive <i>have</i>	Transitive <i>need</i>
Adam	54	12
Anne	244	33
Aran	539	85
Becky	132	17
Eve	196	13
Naomi	35	1
Nina	159	2
Peter	12	0
Sarah	58	3
Shem	7	1

Table 3: 大人の発話における頻度

これと関連して、項削除の言語間変異を司る生得的制約や、「断片的な答え」の形式に関する言語間変異を司る生得的制約についても研究を実施し、これらの性質に関するパラメータに関しても、言語獲得の観点から支持を与えた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① Sugisaki, Koji, and William Snyder. 2010. Fragments in Child English and Spanish. In *The Proceedings of the Eleventh Tokyo Conference on Psycholinguistics*, ed. Yukio Otsu, 253-268. Tokyo: Hituzi Syobo. (査読有)

② Sugisaki, Koji. 2009. Argument Ellipsis in Child Japanese: A Preliminary Report. In *The Proceedings of the Tenth Tokyo Conference on Psycholinguistics*, ed. Yukio Otsu, 291-312. Tokyo: Hituzi Syobo. (査読有)

③ Sugisaki, Koji. 2009. On Children's NEEDS. In *The Proceedings of the Seventh GLOW in Asia*, eds. Rajat Mohanty and Mythili Menon, 225-236. Hyderabad: EFL University Press. (査読有)

[学会発表] (計 7 件)

① Sugisaki, Koji. A Constraint on Argument Ellipsis in Child Japanese. 2011年2月12日, 建国大学(韓国). [招待講演]

② Sugisaki, Koji. 2010. Argument Ellipsis and *Wh*-questions in Child Japanese. 2010年12月23日, 香港中文大学. [招待講演]

③ Sugisaki, Koji. 2010. The Distinction between Case Markers and Postpositions in Early Child Japanese: New Evidence for Children's Grammatical Conservatism. 2010年11月5日, Boston University.

④ Sugisaki, Koji. 2010. Configurational Structure in Child Japanese: New Evidence. *Generative Approaches to Language Acquisition North America 4*, 2010年9月1日, University of Toronto.

⑤ Sugisaki, Koji, and William Snyder. 2010. Children's Grammatical Conservatism: New Evidence. *GLOW in Asia VIII*, 2010年8月13日, 北京語言大学.

⑥ Sugisaki, Koji, and William Snyder. 2010. Fragments in Child English and Spanish. *The Eleventh Tokyo Conference on Psycholinguistics*, 2010年3月12日, 慶應義塾大学.

⑦ Sugisaki, Koji. 2009. Children's Knowledge of the Structural Difference between Relative Clauses and *Wh*-Questions in Japanese. Sixth Workshop on Altaic Formal Linguistics, 2009年9月5日, 名古屋大学.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉崎 敏司 (SUGISAKI KOJI)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号 : 60362331

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし